

東日本大震災復興調査特別委員会

今後の調査は 各常任委員会へ引き継ぎ

東日本大震災復興調査特別委員会は、平成24年1月30日に設置され、約5年4カ月の間、計21回にわたり委員会を開催をしてまいりました。

市の復旧・復興事業は現在も継続中ですが、事業内容が細分化されつつあり、各常任委員会に付託をして調査をすることで復興事業の促進を図る

引き継ぐため、立谷耕一委員長より6月12日に開催された6月定例会にて報告がなされました。

6月定例会で調査結果の報告を行う立谷委員長



松ヶ江地下道の修繕を要望

国道6号細田交差点にかかる松ヶ江地下道では、雨漏りがひどく利用者である地域住民の通行に支障をきたしております。

出し、対応をしていただいた経過があります。7月3日、植村議長より地区住民の安全・安心な通行のため、早急に改善を求める旨を申し伝え、当市議会として、松田和香磐城国道事務所長へ要望書を提出しました。

松田和香磐城国道事務所長（写真中央右）へ要望書を手渡す植村恵治議長（写真中央左）



基幹交通網の早期復旧と整備促進に関する特別委員会 常磐道の4車線化、東北中央道の早期開通、 JR常磐線の早期復旧を国や関係機関へ要望

基幹交通網の早期復旧と整備促進に関する特別委員会（波多野広文委員長）は、5月30日から31日にかけて国や関係機関を訪問し、基幹交通網の復旧と整備について要望活動を行いました。

国土交通省、環境省、復興庁のほか、JR東日本仙台支社、JR東日本水戸支社、NEXCO東

日本、地元選出国會議員に要望書を手渡し、市の実情を強く訴えました。

復興庁では、吉野正芳復興大臣（福島県選出議員）と面談し、東日本大震災からの迅速な復興・再生を成し遂げるためには、基幹交通網の早期復旧と整備促進が不可欠であることを訴え、全面的な支援を求めました。



吉野正芳復興大臣へ交通網整備の必要性を訴える委員ら

要望書の主な内容

1. 常磐自動車道の4車線化

緊急時や災害時に安全安心に利用できるように常磐自動車道を早期に全線4車線化してほしい。また、常磐自動車道の利用度を高め、交流人口を増やす方策として高速道路料金の軽減措置を実施してほしい。

2. 東北中央自動車道の早期開通

東日本大震災からの復興・再生を推進するため、さらには、新たに起こりうる災害へ備えるため、一日も早く全線開通をしてほしい。

3. JR常磐線の早期復旧

仙台都市圏や首都圏へ直接アクセスできる唯一の鉄道であり、人的交流と物流を担う重要な役割を担っていた。一日も早く全線復旧をしてほしい。